科目番号： 37

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	看護学概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔1〕　看護学概論（医学書院）

フロレンス・ナイチンゲール　看護覚え書　（現代社）

目的

人間、健康、保健医療福祉の概念とともに看護の概念を理解し、現代社会の中での看護の位置づけと役割を学ぶ。

目標　1．看護の歴史的変遷や理論家による看護の捉え方を学び、看護の主要概念について考えることができる。

2．看護の機能と役割を看護理論家や専門団体等による定義より理解できる。

3．健康の概念と健康を守る医療保健チームの役割と看護の提供の仕組みを理解できる。

4．看護師の状況やキャリア開発について理解できる。

5．医療、看護をめぐる倫理原則を理解し倫理的問題の解決について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護の定義、看護における基本概念：人間、健康、環境、看護	講義
2	看護実践の基盤となる理論　（ナイチンゲール・ヘンダーソン他）	講義・演習
3	看護の歴史	講義・演習
4	看護の機能と役割、看護の専門性	講義
5	看護の対象、人間のこころとからだ	講義・演習
6	暮らし、生活者としての人間	講義
7	健康とは	講義・演習
8	健康障害とは、健康に影響を与える要因	講義
9	看護における倫理	講義
10	看護職の倫理綱領	演習
11	看護実践過程、専門職としての臨床判断能力・リフレクティブサイクル	講義
12	看護の継続性と多職種連携	講義
13	看護の継続性と多職種連携	講義
14	看護師養成制度・看護師のキャリア開発、看護提供システムと診療報酬	講義
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

看護を学ぶ上での基礎となります。看護は幅広い学習が必要になります。様々なことに関心を持ち視野を広げ学んでおきましょう。

科目番号： 38

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	看護共通基本技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

異教安全ワークブック　第5版（医学書院）

目的

看護技術の概念を理解し、看護を実践するための基礎となる共通する技術を学ぶ。

目標　1．看護技術の特殊性について理解できる。

2．安全安楽を守るための援助技術が理解できる。

3．看護場面におけるコミュニケーションの意義と技術を理解し活用できる。

4．看護における観察・記録・報告の意義が理解できる。

5．バイタルサイン測定の意義とその変動因子を理解し、正確な測定ができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護技術の特徴と概念	講義
2	看護場面における安全安楽、感染予防の基本的対策	講義
3	スタンダードプリコーション、経路別予防策、衛生的手洗い	演習
4	看護場面におけるコミュニケーションの意義	講義
5	看護場面におけるコミュニケーション	講義・演習
6	看護場面におけるコミュニケーション	講義・演習
7	プロセスレコードの検討	講義
8	看護活動における観察の目的と意義	講義
9	看護活動における記録・報告の目的と意義	講義
10	バイタルサイン、バイタルサイン測定の意義、体温	講義
11	呼吸、意識	講義
12	脈拍、血圧	講義
13	バイタルサイン測定方法	講義
14	バイタルサイン測定の実際	演習
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

看護援助の基盤となる技術の学習です。自ら積極的に技術練習に取り組んでください。

科目番号： 39

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	環境を整える看護技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

川口孝泰著　ベッドまわりの環境学(医学書院)

目的

人間にとって快適で安全な生活環境を理解し、整えるための知識と技術を習得する。

目標

１．人間が生活するための適切な環境条件が理解できる。

２．看護における環境調整の意義と役割、方法が理解できる。

３．活動・休息の意義を理解し、活動・休息が障害された対象のニードを理解することができる。

４．体位の種類と適応、体位変換・移動の目的と方法を理解し、安全・安楽に配慮した活動の援助ができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	環境とは（外部環境と内部環境）、人間・健康・環境・看護の関連	講義
2	個人を尊重した環境	講義
3	病棟、病室、病床環境の基礎知識、病床を整えるための基礎知識	講義
4	ベッドメーキングの実際（デモンストレーション）	講義
5	ベッドメーキングの実際	演習
6	ベッドメーキングの実際	演習
7	臥床患者のシーツ交換（デモンストレーション）	講義
8	臥床患者のシーツ交換	演習
9	臥床患者のシーツ交換	演習
10	病床環境を整える援助の実際	演習
11	活動とは、ボディメカニクス、体位変換と移乗・移送の援助	講義
12	睡眠・休息とは、睡眠休息を整える援助	講義
13	体位変換、体位保持の実際	演習
14	移乗・移送の実際	演習
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

日常生活の援助として実施頻度が高く基本的な技術です。講義以外の時間を使い技術練習に取り組みましょう。

科目番号： 40

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	身体の清潔を保つ看護技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔2〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔3〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

目的

人間にとっての清潔の意義を理解し、対象に適した清潔援助を実践するための知識・技術・態度を習得する。

目標　1．清潔の概念を健康生活と関連付けて理解できる。

2．患者にとっての清潔の意義と必要性を理解できる。

3．対象の健康状態や個別的条件に応じて、清潔の援助方法を判断し選択できる。

4．清潔援助を実践するための、知識・技術・態度を習得できる。

5．演習において対象に配慮ある行動を意識して実践できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	身体の清潔	講義
2	清潔援助技術	講義
3	清拭・寝衣交換デモンストレーション	講義・演習
4	清拭	演習
5	清拭	演習
6	清拭	演習
7	洗髪デモンストレーション	講義・演習
8	洗髪	演習
9	洗髪	演習
10	足浴	演習
11	足浴	演習
12	陰部洗浄	演習
13	口腔ケア	演習
14	口腔ケア	演習
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

日常生活の援助として実施頻度が高く基本的な技術です。講義以外の時間を使い技術練習に取り組みましょう。

科目番号： 41

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	栄養と排泄を整える看護技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

目的

人間にとっての栄養と排泄の意義を理解し、対象に適した栄養と排泄を整えるための知識・技術・態度を習得する。

目標

１．生命維持に不可欠な栄養、排泄の意義を理解する。

２．栄養・排泄の障害を理解できる。

３．栄養・排泄の援助が実践できるための知識・技術・態度を習得できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	栄養とは　基礎代謝量と推定エネルギー必要量	講義
2	栄養のアセスメント 必要水分量　食欲と食欲不振時の看護	講義
3	嚥下のメカニズムと誤嚥予防	講義
4	食事介助の実際	演習
5	胃管挿入と注入　経静脈栄養、高カロリー輸液	講義
6	胃管挿入経腸栄養の投与	演習
7	胃管挿入経腸栄養の投与	演習
8	排泄の意義とメカニズム	講義
9	排泄障害	講義
10	排尿・排便を促す看護	講義
11	床上排泄援助（尿器、便器、オムツ）	演習
12	浣腸	演習
13	導尿、膀胱内留置カテーテル	演習
14	導尿、膀胱内留置カテーテル	演習
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

人間の欲求に大きくかかわる援助です。対象者の心理を考えながら援助を学んでいきましょう。

科目番号： 42

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	身体侵襲を伴う看護技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

医療安全ワークブック第５版（医学書院）

目的

感染予防に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する。また、薬物療法における看護の役割と責任を理解し、対象に応じた実践のために知識・技術・態度を習得する。

目標

１．スタンダードプリコーション、感染経路別予防策の基礎知識を理解し、無菌操作の技術が習得できる。

２．吸入・吸引の基礎知識を理解し、口腔・鼻腔・気管内の吸引を実施することができる。

３．薬物療法の意義、与薬方法の種類と実際について理解できる。

４．皮下注射、筋肉内注射、点滴静脈内注射がモデルに実施できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	洗浄・消毒・滅菌法	講義
2	滅菌手袋の装着、ガウンテクニック、無菌操作、創傷処置	演習
3	噴霧吸入、酸素吸入の基礎知識	講義
4	吸引の基礎知識	講義
5	口腔・鼻腔、気管内吸引の実際	演習
6	与薬に関する基礎知識	講義
7	経口与薬の実際	演習
8	注射器、注射針の取扱い	講義
9	皮内、皮下、筋肉内注射	演習
10	皮下注射、筋肉内注射の実際	演習
11	皮下注射、筋肉内注射の実際	演習
12	静脈内注射	講義
13	点滴静脈内注射の実際	演習
14	点滴静脈内注射の実際	演習
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

注射は身体侵襲を伴う援助技術です。解剖生理学を基に根拠を十分理解し技術を学んでいきましょう。

科目番号： 43

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	生体機能管理技術				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	後期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

医療安全ワークブック　第５版（医学書院）

目的

診療の場や検査における看護の役割を理解し、対象の特徴をふまえた実践のための知識・技術・態度を習得する。

目標

１．生体検査・検体検査の基礎知識を理解できる。

２．静脈血採血の方法が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	生体管理機能技術の基礎知識（生体検査の種類・目的・方法と援助、生体情報のﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ）	講義
2	静脈血採血の基礎知識	講義
3	静脈血採血の技術演習　真空管採血法、シリンジ採血法	講義
4	静脈血採血の技術演習　真空管採血法、シリンジ採血法	演習
5	検査の種類・目的と援助	講義
6	検査の種類・目的と援助	講義
7	処置の種類・目的と援助	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

検査・処置は対象の身体侵襲が大きいので対象の心理面に配慮しましょう。安全な技術を習得するために解剖生理学を基に根拠を十分理解して臨みましょう。

科目番号：44

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	フィジカルアセスメント				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
山内豊明著　ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ　一目と手と耳でここまでわかる　第２版（医学書院）

目的

看護援助のためのヘルスアセスメントに必要なフィジカルアセスメントの基本を理解する。

目標

１．フィジカルアセスメントの方法が理解できる。
２．フィジカルアセスメントの基本的技術が実施できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	ヘルスアセスメントとは、フィジカルアセスメントの定義、問診	講義
2	フィジカルイグザミネーション（視診・触診・聴診・打診）	講義
3	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義
4	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義
5	循環器系のフィジカルアセスメント	講義
6	腹部のフィジカルアセスメント	講義
7	胸部・腹部のフィジカルアセスメントの実際	演習
8	胸部・腹部のフィジカルアセスメントの実際	演習
9	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	講義
10	神経系のフィジカルアセスメント	講義
11	乳房・腋窩、頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント	講義
12	胸腹部以外のフィジカルイグザミネーションの実際	講義
13	フィジカルアセスメントOSCE	演習
14	フィジカルアセスメントOSCE	演習
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験・実技試験を総合的に評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

既習の解剖整理学の復習を十分行い、毎回の講義に臨みましょう。

科目番号： 45

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	基礎看護技術演習				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕　基礎看護技術Ⅱ（医学書院）

目的

学習した知識と技術を統合して、対象にあった日常生活援助を習得する。

目標

１．設定した事例に合わせて援助の必要性を考え、日常生活援助の計画ができる。

２．立案した計画に沿って、日常生活の援助技術を実施することができる。

３．模擬患者に実施した看護援助の評価ができる。

４．看護者としての姿勢や態度について、自己を振り返り考えることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	演習の進め方についてのオリエンテーション	講義
2	受持ち患者情報、援助計画記録の作成、看護経過記録の作成	演習
3	受持ち患者情報、援助計画記録の作成、看護経過記録の作成	演習
4	援助計画記録の作成、技術演習	演習
5	援助計画の作成、技術演習	演習
6	援助計画の作成、技術演習	演習
7	模擬患者への日常生活援助の実践、リフレクション	演習
8	模擬患者への実践、リフレクション	演習
9	模擬患者への実践、リフレクション	演習
10	模擬患者への実践、リフレクション	演習
11	模擬患者への実践、情報共有、検討会	演習
12	模擬患者への実践、リフレクション	演習
13	模擬患者への実践、リフレクション	演習
14	模擬患者への実践、リフレクション	演習
15	技術試験・まとめ	演習

評価方法・評価基準

課題・授業参加度30%、実技試験70%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

この科目は、既習の看護技術を事例に合わせた方法で実施する演習です。看護技術の復習をしっかり行い演習に望みましょう。

科目番号： 46

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	看護過程展開の技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔２〕基礎看護学技術Ⅰ(医学概論)
リンダJ．カルペニート著　黒江ゆり子監訳　看護診断ハンドブック　第11版（医学書院）
ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断（ヌーヴェルヒロカワ）

目的

事例を通して看護過程のステップを学び、看護の科学的思考の基盤となる理論と技術を習得する。

目標

１．看護過程の概念が理解できる。
２．看護過程の各要素が理解できる。
３．看護過程の展開方法が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護過程の意義、看護過程の構成要素、クリティカルシンキング	講義
2	病態関連図、ゴードンのアセスメントの枠組み	講義
3	アセスメントについて	講義
4	病態関連図、11の機能的健康パターン	講義
5	病態関連図の検討会	演習
6	11の機能的健康パターン	講義・演習
7	11の機能的健康パターンの検討会	講義・演習
8	11の機能的健康パターン	講義・演習
9	11の機能的健康パターンの検討会	講義・演習
10	統合関連図	講義
11	統合関連図、全体像	講義・演習
12	統合関連図、全体像	講義・演習
13	看護計画	講義
14	看護計画	講義・演習
15	経過記録、評価	講義・演習

評価方法・評価基準

課題提出内容、発表内容、参加度、出席時間を総合的に評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 47

分野	専門分野（基礎看護学）				
科目名（必修）	研究方法論				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		

テキスト
系統看護学講座　別巻　看護研究（医学書院）
はじめてでも迷わない！看護のためのケーススタディ　（医学書院）

目的
　看護研究を実施するための基盤となる基本的知識および論文執筆までのプロセスについて学ぶとともに、演習を通して文献検索および文献カード作成の技術を身につける。

目標
1. 研究の分類および研究方法について理解できる。
2. 文献データベースを活用し目的に沿った文献検索が実施できる。
3. 論文の内容を適切に捉えた文献カードが作成できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護研究の意義と目的、研究の分類と特徴	講義
2	看護研究のプロセスと倫理的配慮	講義
3	文献レビューとクリティーク、文献検索・入手の方法	講義・演習
4	文献検索発表	演習
5	事例研究の方法	講義
6	論文の書き方、研究発表の方法	講義
7	事例研究の実際（研究発表視聴）	演習
8	事例研究の実際（研究発表視聴）	演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

文献レビュー20%、レポート80%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

《参考書》
・図村佐和子 編：看護研究 第3版 ナーシンググラフィカ基礎看護学. 2017, メディカ出版.
・黒田裕子 著：黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版. 2019, 医学書院.

科目番号： 48

分野	専門分野（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	地域で生活する人々の暮らしと健康				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の基盤　地域･在宅看護論１（医学書院）

目的

地域における人々の個々の暮らしを知り、対象の生活を見る視点を養う。

目標

１．あらゆる発達段階、健康レベルの人々が地域でどのように生活しているか理解できる。

２．暮らしや生活環境が人々の健康に影響を与えることが理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	生活と暮らし、地域と在宅、家族	講義
2	フィールドワークの導入（グループワーク：フィールドワークの視点の抽出、地域リサーチ）	講義・演習
3	フィールドワーク	演習
4	フィールドワーク	演習
5	フィールドワーク地域のリサーチ（人口構造、家族構成等）、自分の生活地域リサーチとの比較	演習
6	フィールドワークまとめ（支えあい生きるとは、人々の健康が生活の中でどのように保たれているか）	演習
7	フィールドワーク発表	講義・演習
8	レポート作成	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

フィールドワーク・グループワーク参加度30％、グループワークまとめ・発表30％、レポート40％とし、100点中60点以上を合格とす

その他

この科目はグループワークを中心に学習します。グループ内での役割を果たし、目標達成できるよう取り組みましょう。

科目番号： 49

分野	専門分野（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	地域・在宅看護概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の基盤　地域･在宅看護論１（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の実践　地域･在宅看護論２（医学書院）

目的

　在宅看護の目的および対象や場の特徴について理解を深め、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について学ぶ。また、地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステムの現状を理解し地域連携を学ぶ。

目標

1. 在宅看護の目的と対象および場の特徴について説明できる。
2. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について説明できる。
3. 在宅医療の基盤となる法律・制度、サポートシステムについて理解できる。
4. 地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステムの現状を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	在宅看護の概念と歴史的背景	講義
2	在宅看護の対象とその特徴	講義
3	在宅看護が提供される場の特徴と倫理	講義
4	在宅看護の基本となるもの	講義
5	在宅療養者を支える家族の理解に有用な諸理論（家族システム論、家族発達理論）	講義
6	地域包括ケアシステム	講義
7	在宅看護の基盤となる法律・制度および社会資源	講義
8	試験、《ゼミナール》オリエンテーション、探求するテーマの検討	演習
9	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム　調査計画書作成	演習
10	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム　調査	演習
11	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム　調査	演習
12	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム　まとめ・考察	演習
13	地域で暮らす人々を支える地域包括ケアシステム　まとめ・考察	演習
14	発表	演習
15	発表	演習

評価方法・評価基準

筆記試験50％、グループワーク・発表50％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 50

分野	専門分野（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	地域における健康支援				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の基盤　地域･在宅看護論１（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の実践　地域･在宅看護論２（医学書院）

目的

　地域で暮らす人々の健康の保持・増進に向けた保健指導のあり方について、諸理論を活用した指導教材の作成およびロールプレイを通して学習する。

目標

１. 健康の保持・増進のための保健指導に活用できる理論を知る。

２. 対象の発達段階に合わせた健康の保持・増進に向けた保健指導を実施できる。

３. 実施した指導を振り返り、保健指導のあり方について自らの考えを述べることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護指導の意義と目的、集団指導と個別指導	講義
2	看護指導に活用可能な諸理論（ｱﾝﾄﾞﾗｺﾞｼﾞｰ、ﾍﾟﾀｺﾞｼﾞｰ、ｼﾞｪﾛｺﾞｼﾞｰ、健康信念ﾓﾃﾞﾙ、社会的認知理論）	講義
3	個別指導テーマの検討、計画の立案	演習
4	指導教材作成（生活習慣病の個別指導）	演習
5	指導教材作成（生活習慣病の個別指導）	演習
6	ロールプレイ、ディスカッション	演習
7	ロールプレイ、ディスカッション	演習
8	レポート作成	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

演習40％、レポート40％、課題への取り組み20％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 51

分野	専門分野（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	療養者の暮らしを支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の基盤　地域･在宅看護論１（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の実践　地域･在宅看護論２（医学書院）

目的

療養者が地域で自立・自律した生活ができるように支援する上で必要な他職種連携、継続看護および訪問看護の考え方について理解する。

目標

1. 療養者が地域で自立・自律した生活ができるように支援するための継続看護の意義について説明できる。
2. 様々な対象の暮らしを支える訪問看護の役割と特徴が理解できる。
3. 訪問看護における家族支援のあり方について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	地域医療連携室の位置付けと役割、入院時スクリーニング	講義
2	退院に関わる問題点の明確化と目標の調整、院内での退院カンファレンス、退院支援計画	講義
3	退院前カンファレンス、家族のサポート力アセスメント、療養先を見据えた社会資源の活用	講義
4	訪問看護の役割と法的基盤	講義
5	訪問看護における多職種連携、多職種ケアカンファレンス	講義
6	訪問看護における家族支援	講義
7	在宅における創傷管理	講義
8	在宅で療養する小児の看護	講義
9	精神疾患をもつ在宅療養者の看護	講義
10	難病をもつ在宅療養者の看護（パーキンソン病、ALS）	講義
11	在宅における終末期ケア	講義
12	医療依存度の高い在宅療養者の看護（HOT, HMV）	講義
13	在宅療養における安全管理、災害時の対応	講義
14	認知症を持つ在宅療養者の看護（事例演習）	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 52

分野	専門分野（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	在宅看護技術				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の基盤　地域･在宅看護論１（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の実践　地域･在宅看護論２（医学書院）

目的

在宅看護実践の基盤となる技術として、療養者・家族との信頼関係の構築および意思決定支援の技術、生活支援技術を身につける。また、在宅療養者が活用可能な福祉用具とその利用手続きについて理解する。

目標

1. 在宅看護における信頼関係構築のための接遇とコミュニケーション技術を身につけることができる。
2. 在宅看護における意思決定支援の方法が理解できる。
3. 在宅における日常生活援助の方法が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	在宅看護における信頼関係構築・意思決定への支援の意義と目的	講義
2	信頼関係構築のための接遇・コミュニケーション技術	講義
3	信頼関係構築のための接遇・コミュニケーション技術	講義
4	在宅看護における意思決定支援の技術	講義
5	在宅看護における意思決定支援の技術	講義
6	移動のアセスメント、ノーリフトケア、福祉用具の種類と適応	講義・演習
7	福祉用具見学と利用手続き	演習
8	福祉用具見学と利用手続き	演習
9	在宅での清潔保持のための技術と物品の工夫（陰部洗浄、洗髪）	演習
10	在宅での清潔保持のための技術と物品の工夫（陰部洗浄、洗髪）	演習
11	在宅での清潔保持のための技術と物品の工夫（陰部洗浄、洗髪）発表	演習
12	在宅での看取り	講義
13	在宅における排泄管理（自己導尿、膀胱留置カテーテル管理、排便管理）	講義
14	在宅での栄養管理技術（経管栄養法、中心静脈栄養法）	講義
15	レポート作成・まとめ	講義

評価方法・評価基準

レポート60％、発表30％、演習への取り組み10％とし、100点満点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 53

分野	専門分野（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	在宅療養をする人の看護過程				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の基盤　地域･在宅看護論１（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　地域･在宅看護の実践　地域･在宅看護論２（医学書院）

目的

地域・在宅看護論での学習を統合し、事例を通して在宅療養者と家族の健康な生活を支えるための看護を考える力を養う。

目標

1. 在宅療養・医療処置が必要な療養者および家族の問題点を考えることができる。
2. 療養者・家族が在宅療養を継続するうえで必要な、看護介入および社会資源の活用が理解できる。
3. 在宅看護の特徴を踏まえ、看護過程の展開ができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	在宅療養者の看護過程について　事例の在宅療養者の理解	講義・演習
2	関連図の記載　アセスメント	演習
3	関連図の発表・検討	講義・演習
4	アセスメント	演習
5	アセスメント	演習
6	アセスメント発表会、討議	講義・演習
7	統合関連図、全体像、問題、目標の記載	演習
8	統合関連図、全体像、問題、目標の発表、討議	講義・演習
9	看護計画の記載	演習
10	看護計画発表、討議	講義・演習
11	援助の実施方法の検討	演習
12	援助の実施方法の検討	演習
13	一場面のロールプレイ（日常生活援助）	演習
14	一場面のロールプレイ（医療処置、指導場面）	演習
15	計画の評価修正の発表、検討　まとめ	講義・演習

評価方法・評価基準

各提出課題の内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 54

分野	専門分野（成人看護学）				
科目名（必修）	成人看護学概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔1〕　成人看護学総論(医学書院)

厚生の指標　増刊　国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

目的

成人期にある対象の身体的、心理的、社会的特徴と健康の維持・増進及び健康障害の回復に向けた援助の必要性を理解し、あらゆる健康レベルにある成人に看護を展開できる知識、技術、態度を習得する。

目標

1．社会的役割と変化する発達課題を持つ成人各期の対象を理解できる。

2．成人各期の健康問題の特徴や動向を理解できる。

3．成人期に特有な生活習慣病とその現状、保健活動を理解できる。

4．成人期の人々の特徴をとらえたセルフマネジメントに向けての看護が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	成人の特徴と生活	講義
2	成人を取り巻く環境と生活からみた健康	講義
3	成人における健康の保持・増進や疾病の予防（生活習慣）	講義・演習
4	成人における健康の保持・増進や疾病の予防（ストレス）	講義
5	成人における健康の保持・増進や疾病の予防(職業関連)	講義
6	学習の特徴と看護（アンドラゴジーモデル、エンパワメント）	講義・演習
7	学習の特徴と看護（オレム、セルフマネジメントモデル）	講義・演習
8	成人への看護アプローチの基本（生活の中で健康行動を生み育む援助）	講義・演習
9	成人への看護アプローチの基本（健康課題を持つ大人と看護師の人間関係、病みの軌跡）	講義・演習
10	成人への看護アプローチの基本（人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ）	講義・演習
11	看護実践における倫理的判断	講義
12	意思決定支援	講義
13	家族支援	講義
14	ヘルスプロモーションと看護	講義
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験90％、課題学習10％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 55

分野	専門分野（成人看護学）				
科目名（必修）	急性期における生命維持を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔３〕　循環器（医学書院）　別巻　臨床外科看護総論（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学〔３〕基礎看護技術Ⅱ（医学書院）
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論（医学書院）　別巻　救急看護学（医学書院）
倉橋順子　他著　はじめての手術看護　－カラービジュアルでみてわかる！　第１版（メディカ出版）

目的

急性症状および、生命の危機的状態にある人の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について学ぶ。手術、検査、薬物療法などの身体侵襲を伴う治療を受ける患者の看護について学ぶ。

目標

1　急性期看護の特徴を理解できる。
2　急性症状および、生命の危機的状態にある人の観察や看護判断、患者の状態に応じた看護について理解できる。
3　手術・検査・薬物療法などの身体侵襲を伴う治療を受ける患者の看護について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	生命の危機状態にある成人とその家族の特徴）　クリティカルケアの基本	講義
2	循環不全のある人の看護（急性心筋梗塞、狭心症）	講義
3	循環不全のある人の看護（急性心不全）	講義
4	集中治療看護（ICUの概要・看護、人工呼吸器装着による看護）	講義
5	集中治療看護(循環器系に必要なME機器の装着中の合併症と看護）	講義
6	救命救急処置	講義・演習
7	救命救急処置	演習
8	術前からの看護（手術の意思決定/術後合併症のリスクアセスメント/ボディイメージの変容への援助）	講義
9	手術室看護師の役割（手術看護とは/手術室看護師の役割、間接介助・直接介助）	講義
10	術中の看護（手術方法による影響/手術体位による影響/麻酔の影響/安全管理）	講義
11	術後の看護（生体反応/疼痛管理/創傷管理/ドレーン管理）	講義
12	術後の看護(意識レベル・呼吸・循環・消化器系合併症・術後精神状態・代謝・内分泌合併症）	講義
13	術後合併症の予防と看護、回復を促進する援助、日常生活の自立への援助	講義
14	術後の看護、輸血療法	講義
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 56

分野	専門分野（成人看護学）				
科目名（必修）	セルフケアの再獲得を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔７〕　脳・神経（医学書院）　成人看護学〔９〕　女性生殖器（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔10〕　運動器（医学書院）　成人看護学〔13〕　眼（医学書院）
系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護（医学書院）

目的

生活者としての成人を主軸として捉え、セルフケアの再獲得の必要性について学ぶ。可逆的・不可逆的な障害をもち、セルフケア再獲得を余儀なくされる人への看護について学ぶ。

目標

１．生活者としての成人を主軸として捉え、セルフケア再獲得の必要性について理解できる。
２．可逆的・不可逆的な障害をもち、セルフケアの再獲得を余儀なくされる人への看護について理解できる。
３．リハビリテーション看護の概念を理解し、その人らしい生活の再構築への看護が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	総論：セルフケアの再獲得、リハビリテーション看護とは	講義
2	脳血管疾患をもつ患者の経過と看護	講義
3	生活基本行動レベルのセルフケア再獲得　ADLの再獲得	講義
4	生活基本行動レベルのセルフケア再獲得　ADLの再獲得	講義
5	家庭におけるセルフケア再獲得　IADLの再獲得	講義
6	腎不全をもつ患者のセルフケア再獲得	講義
7	腎不全をもつ患者のセルフケア再獲得	講義
8	透析を受ける患者のセルフケア再獲得	講義
9	排尿機能障害のある患者のセルフケア再獲得	講義
10	視覚障害をもつ患者のセルフケア再獲得	講義
11	運動機能障害による生活機能への影響	講義
12	役割遂行に関わるセルフケアの再獲得と維持	講義
13	職業生活に関わるセルフケアの再獲得	講義
14	ボディイメージの変容を伴う患者のセルフケア再獲得	講義
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 57

分野	専門分野（成人看護学）				
科目名（必修）	健康課題と共に生活する人を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔2〕　呼吸器、〔3〕循環器、〔4〕血液･造血器、〔5〕消化器　（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔6〕内分泌･代謝、〔１１〕アレルギー・膠原病・感染症　（医学書院）
系統看護学講座　別巻　がん看護学（医学書院）

目的

慢性疾患を持つ成人が健康課題と共に生活することを支えるための学習支援と健康管理支援について学ぶ。

目標

１．成人に特有な健康課題の特徴を理解し、健康の保持増進、疾病の予防にむけた看護が理解できる。

２．セルフマネジメントの基本的な考え方を理解し、慢性疾患とともに生活する成人への支援方法が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	呼吸機能障害のある患者の特徴、気管支喘息患者の看護	講義
2	慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者の看護	講義
3	肺がん患者の看護	講義
4	循環器疾患を持つ患者の特徴、循環機能のアセスメント	講義
5	虚血性心疾患を持つ患者の看護	講義
6	不整脈を持つ患者の看護、動脈系疾患を持つ患者の看護	講義
7	慢性疾患を持つ患者の看護	講義
8	消化器疾患を持つ患者の特徴、上部消化管の機能障害がある患者の看護	講義
9	下部消化管機能障害がある患者の看護	講義
10	肝臓・胆嚢疾患患者の看護	講義
11	膵臓疾患患者の看護	講義
12	糖尿病を持つ患者の看護	講義
13	甲状腺・副腎・下垂体の機能障害を持つ患者の看護	講義
14	血液・造血器疾患を持つ患者の看護	講義
15	試験、まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 58

分野	専門分野（成人看護学）				
科目名（必修）	終末期にある人を支える看護				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　別巻　緩和ケア（医学書院）

目的

　終末期にある人の全人的な苦痛の緩和と、その個人が持つ力を最後まで支え、希望を実現できるような看護を学ぶ。終末期にある人を取り巻く家族のニードを理解し、「人が生きる意味」を問い続ける姿勢を養う。

目標　1．終末期にある人の全人的な苦痛の緩和について理解できる。

2．終末期にある人の意志決定を支え、個人が持つ力を支える看護について理解できる。

3．終末期にある人を取り巻く環境、家族のニードを理解できる。

4．臨終時の看護（エンゼルケア）について理解できる。

5．自己の死生観に目をむけ、人が生きる意味について考え、言語化できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	人の生命、死と医療・終末期にある人の特徴(キューブラ・ロス　死にゆく人の心理過程)	講義
2	終末期にある人の意思決定を支える関わり（患者の権利、家族の権利、患者・家族との対話）	講義
3	人の死と緩和ケア（緩和ケアとは、療養と生活の場、チームアプローチ、患者との関係確立）	講義
4	人の死と緩和ケア(全人的苦痛とは)	講義
5	生命の維持と全人的苦痛の緩和（身体的苦痛の緩和、合併症や二次感染の予防、緩和）	講義
6	生命の維持と全人的苦痛の緩和（日常生活行動への援助、精神的苦痛の緩和）	講義・演習
7	家族の援助について／危篤・臨終時の看護（エンゼルケア）	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験とレポートを合わせ100点とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 59

分野	専門分野（成人看護学）				
科目名（必修）	成人期にある人の看護過程				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　成人看護学〔3〕循環器、　〔5〕　消化器（医学書院）
系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（医学書院）
リンダJ．カルペニート著　黒江ゆり子監訳　看護診断ハンドブック　第11版（医学書院）

目的

成人期に多く見られる代表的事例を用いて演習を行い、急性期と回復期の看護過程を展開する能力を養う。

目標

１．成人各期の健康課題の特徴や動向をふまえ、慢性疾患の患者の看護展開ができる。
２．全身麻酔下で手術療法を受ける患者の看護展開ができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護目標・看護計画・看護実践の関連	講義
2	看護目標の評価指標、看護経過記録について	講義
3	評価に基づいた実践へのフィードバック	講義
4	看護場面の実践・評価	講義
5	リフレクション　学びの共有	講義
6	看護場面の実践・評価　　リフレクション	講義
7	看護要約について	講義
8	急性期とは　事例紹介　情報収集・観察の視点	講義
9	１１パターンのアセスメント（グループワーク）	講義
10	１１パターンのアセスメント検討会①	講義
11	１１パターンのアセスメント検討会①　統合関連図　全体像について	講義
12	看護計画発表会①	講義
13	看護計画発表会②	講義
14	術後の観察の視点と実際　看護経過記録の書き方	講義
15	看護経過記録検討会	講義

評価方法・評価基準

各レポート、課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

小グループで事例をもとに看護過程を展開します。
《参考書》・百瀬千尋編著　看護学生のためのレポート＆実習記録の書き方　第２版（メヂカルフレンド社）

科目番号： 60

分野	専門分野（老年看護学）				
科目名（必修）	老年看護学概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　　老年看護学（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　　老年看護　病態・疾患論（医学書院）
厚生の指標　増刊　国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

目的

高齢社会における老年期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、対象への看護活動のあり方について学ぶ。

目標　1．高齢者の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。
2．高齢者とその家族の現状および支援について理解できる。
3．高齢者の人権を尊重し、尊厳を守る大切さを理解できる。
4．高齢者とその家族にとっての「死」について考えを深めることができる。
5．社会構造の変化における高齢者の保健医療福祉の現状と課題が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	老いとは、老年期の概念、発達課題（ハヴィガースト、エイジング）	講義
2	インスタントシニアを用いての高齢者体験	演習
3	加齢に伴う身体的変化	講義
4	加齢に伴う身体的変化	講義
5	加齢に伴う心理・社会的変化、高齢者の性	講義
6	高齢者と家族	講義
7	高齢者の権利擁護、制度	講義
8	高齢者の虐待、身体拘束	講義・演習
9	高齢者にとっての死、エンド・オブ・ライフケア	講義
10	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義
11	高齢者に関わる医療保健制度	講義
12	介護保険、地域包括ケア	講義
13	高齢者に関するトピックス	演習
14	高齢者に関わるトピックス（発表）	演習
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

課題学習20％・筆記試験80％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 61

分野	専門分野（老年看護学）				
科目名（必修）	高齢者の日常生活を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　　老年看護学（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　　老年看護　病態・疾患論（医学書院）

目的

　老年看護の対象である高齢者を発達過程の視点から理解し、高齢者への日常生活援助の意義とその方法を理解する。老年期の特有な障害及び症状をもつ高齢者とその家族に対する看護について学ぶ。

目標

１．高齢者への援助の基本的考え方と日常生活援助の意義・方法が理解できる。

２．高齢者総合機能評価（ＣＧＡ）をはじめとした、高齢者のアセスメントの意義が理解できる。

３．高齢者の代表的な障害および症状の発生機序と要因、生活への影響、看護について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	老年看護の目標、高齢者への援助の基本的考え方	講義
2	老年期患者の特徴・アセスメントの視点	講義
3	高齢者に特有な障害及び症状と看護（フレイル、ロコモティブシンドローム）	講義
4	高齢者に特有な障害及び症状と看護（認知症）	講義
5	高齢者に特有な障害及び症状と看護（認知症）	講義
6	高齢者に特有な障害及び症状と看護（認知症）	講義
7	高齢者に特有な障害及び症状と看護（うつ、せん妄、睡眠障害）	講義
8	高齢者に特有な障害及び症状と看護（摂食・嚥下障害）	講義
9	高齢者に特有な障害及び症状と看護（摂食・嚥下障害）	講義・演習
10	高齢者に特有な障害及び症状と看護（排泄障害）	講義
11	高齢者に特有な障害及び症状と看護（褥瘡）	講義
12	高齢者に特有な障害及び症状と看護（褥瘡）	講義・演習
13	高齢者に特有な障害及び症状と看護（脱水・熱中症、かゆみ、パーキンソン症候群）	講義
14	高齢者の事故、高齢者と災害	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 62

分野	専門分野（老年看護学）				
科目名（必修）	治療を受ける高齢者を支える看護				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	前期		

系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論（医学書院）
リンダJ．カルペニート編著　黒江ゆり子監訳　看護診断ハンドブック　第11版(医学書院)

目的

治療を必要とする高齢者に必要な看護について学ぶ。　加齢変化、疾病により生じた諸問題から、高齢者の特徴をふまえた急性期の看護について学ぶ。

目標

1．治療・検査を受ける高齢者の特徴と必要な看護を理解できる。
2．緊急入院をして手術を受ける老年期患者の看護を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	外来受診・検査を受ける高齢者の看護	講義
2	薬物療法を受ける高齢者の看護	講義
3	入院治療・リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義
4	手術療法を受ける高齢者の術前・術後の看護	講義
5	緊急手術を受ける高齢者のアセスメント（事例：大腿骨頚部骨折）	講義
6	緊急手術を受ける高齢者のアセスメント・看護診断・看護目標	講義
7	アセスメント・看護診断名・看護目標発表会、退院に向けた支援	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験、課題提出内容、発表内容、参加度、出席時間を総合的に評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 63

分野	専門分野（老年看護学）				
科目名（必修）	老年期にある人の看護過程				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　老年看護学（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論（医学書院）
リンダJ．カルペニート編著　黒江ゆり子監訳　看護診断ハンドブック　第11版(医学書院)

目的

老年期に多くみられる代表的な疾患の事例を用いて看護過程を展開する力を養う。

目標

1．老年期患者の特徴をふまえた看護展開が理解できる。
２．事例を通して健康障害をもつ老年期患者を統合的に理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	老年の看護過程の展開について（事例：誤嚥性肺炎）	講義
2	関連図、アセスメント	講義・演習
3	アセスメント、看護診断	演習
4	アセスメント・看護診断発表	演習
5	看護診断、看護目標、看護計画	演習
6	看護計画	演習
7	看護計画	演習
8	看護計画発表会	講義・演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

課題学習提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 64

分野	専門分野（小児看護学）				
科目名（必修）	小児看護学概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト
系統看護学講座　専門分野　小児看護学〔1〕　小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）
厚生の指標　増刊　国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

目的
　小児の特性と小児保健活動の概念を理解し、あらゆる健康レベルにある小児とその家族に対して援助を行うための基礎知識を学ぶ。

目標　1．健康な小児の発達段階に応じた身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。
　　2．小児各期の特徴をふまえた援助を理解できる。
　　3．子どもの権利と擁護について考えることができる。
　　4．子どもと家族、それらを取り巻く社会との関係を考えることができる。
　　5．小児看護の役割、現代の小児医療の問題点について考えることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	小児医療・小児看護の変遷と課題/子どもの権利	講義
2	子どもの成長・発達（ピアジェ）/子どもと家族を取り巻く社会資源の活用	講義
3	成長、発達（形態的・機能的発達）	講義
4	成長、発達（形態的・機能的発達）	講義
5	成長、発達（形態的・機能的発達）	講義
6	小児の心理・社会的発達	講義
7	小児の栄養	講義
8	基本的生活習慣の獲得	講義
9	子どもと家族	講義
10	遊びと学習	講義
11	予防接種と学校保健安全法	講義
12	子どもを取り巻く社会	講義
13	グループワーク（小児に関わる諸問題）	演習
14	グループワーク発表	演習
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験80％、グループワーク20％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 65

分野	専門分野（小児看護学）				
科目名（必修）	治療を受ける小児の理解				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					医師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野 小児看護学〔２〕 小児臨床看護各論　　（医学書院）

目的

小児期の健康障害とその経過の特徴を理解し、小児期の代表的な疾患とその病態生理、検査と治療について学び小児看護に必要な基礎知識を身に着ける。

目標

１．小児期に特有な疾患のと病態生理学を理解できる。

２．小児の健康支援、予防医学を理解できる。

３．小児期特有の疾患とその治療、検査を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	新生児疾患	講義
2	代謝性疾患（先天性代謝異常、1型糖尿病）	講義
3	内分泌疾患	講義
4	免疫・アレルギー疾患	講義
5	感染症、呼吸器	講義
6	循環器	講義
7	消化器疾患	講義
8	血液・造血器疾患	講義
9	悪性新生物	講義
10	腎・泌尿器疾患	講義
11	神経疾患	講義
12	運動器疾患	講義
13	皮膚・眼・耳鼻科疾患	講義
14	事故・外傷	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 66

分野	専門分野（小児看護学）				
科目名（必修）	健康課題のある小児の日常生活を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野 小児看護学〔1〕　小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）

系統看護学講座　専門分野 小児看護学〔2〕　小児臨床看護各論（医学書院）

目的

健康課題が小児と家族に及ぼす影響を理解し、日常生活を支える看護を実践する能力を培う。

目標

1．病気・障害が子どもと家族に及ぼす影響について理解できる。

2．小児期の代表的な健康問題と看護について理解できる。

3．小児看護技術について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義
2	入院中の子どもと家族の看護	講義
3	在宅療養中の子どもと家族	講義
4	事故および災害時の子どもと家族への看護	講義
5	症状のある子どもの看護；発熱、呼吸困難（酸素療法、吸引）	講義
6	症状のある子どもの看護；嘔吐・下痢、脱水（輸液・抑制）	講義
7	代表疾患における看護；悪性腫瘍	講義
8	代表疾患における看護；1型糖尿病、アレルギー疾患、けいれん	講義
9	代表疾患における看護；先天性心疾患、川崎病、腎疾患	講義
10	手術を受ける子どもの看護	講義
11	小児の看護技術；バイタルサイン測定、計測	講義
12	小児の看護技術；与薬、抑制、検体採取（検尿、骨髄穿刺、腰椎穿刺）	講義
13	小児の看護技術；救急救命処置	講義
14	バイタルサイン測定、計測、採尿、酸素療法、浣腸	演習
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 67

分野	専門分野（小児看護学）				
科目名（必修）	小児の看護過程				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		

テキスト　　系統看護学講座　専門分野 小児看護学〔２〕 小児臨床看護各論（医学書院）
リンダJ.カルペニート著　黒江ゆり子監訳　看護診断ハンドブック　第11版（医学書院）

目的

小児に多くみられる、代表的事例を用いて演習を行い、小児の成長・発達段階および小児看護の特性を踏まえた看護過程について理解する。

目標

1．患児の成長・発達段階を踏まえ、健康課題のある小児の問題を明確にし、援助を考えることができる。
2．健康課題のある小児の看護過程の展開を理解できる。
3．症状の悪化を踏まえたアセスメントができる。
4．家族と小児への生活指導を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	小児の看護過程の展開について、健康レベルに応じた小児と家族の特徴（事例：気管支喘息）	講義
2	アセスメント・関連図	演習
3	各パターンのアセスメント・関連図	演習
4	看護診断の抽出	演習
5	看護診断発表	演習
6	計画立案	演習
7	計画発表、ロールプレイ（プレパレーション）	演習
8	ロールプレイ（プレパレーション）	演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

レポート、課題提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 68

分野	専門分野（母性看護学）				
科目名（必修）	母性看護学概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	後期		

テキスト

新体系　看護学全書　母性看護学①　母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社）

新体系　看護学全書　母性看護学②　母性看護学概論／マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社）

厚生の指標　増刊　国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

目的

母性の概念とその特性を理解し、保健医療福祉における母性看護の基礎となる知識・技術・態度を習得する。生命を生み育てる母性、生命の継続や尊厳について考える機会とする。

目標

1．母性の概念とその特性を理解できる。

2．生理的現象である妊娠･分娩という役割を担う女性の健康について身体的・精神的･社会的側面から総合的に理解できる。

3．保健医療福祉における母性看護の役割を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	母性看護に関する概念（ボウルビー）	講義
2	女性のライフサイクル各期における看護	講義
3	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題	演習
4	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題	演習
5	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題、発表	演習
6	リプロダクティブヘルスを阻害する健康問題、発表	演習
7	思春期・成熟期女性の健康課題と看護	講義
8	思春期・成熟期女性の健康課題と看護	講義
9	更年期・老年期女性の健康課題と看護	講義
10	更年期・老年期女性の健康課題と看護	講義
11	更年期・老年期女性の健康課題と看護	講義
12	妊娠・出産に関する基礎知識	講義
13	母子保健の動向と母性看護に関する法規	講義
14	周産期医療システムと母子保健施策	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験、レポート、課題提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 69

分野	専門分野（母性看護学）				
科目名（必修）	妊産婦を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					助産師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

新体系看護学全書　母性看護学①　母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社）

目的

　対象が自身と新しい生命の健康管理が実践できるように生活指導を中心とした看護について学習し、妊娠・分娩期の看護実践の基礎知識を学ぶ。

目標

１．正常妊娠の胎児発育と生理、妊娠期と分娩期の母体の生理的変化について理解できる。

２．妊娠期に必要な妊婦の健康管理と保健指導について理解できる。

３．分娩の経過と看護について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	妊娠の生理と経過／健康診断と胎児の健康管理	講義
2	妊婦の診察と介助／妊婦の心理・社会的特徴	講義
3	妊婦の健康管理と保健指導	講義
4	妊娠中の日常生活の過ごし方と注意点	講義
5	妊産婦の食事指導／マイナートラブルと保健指導	講義
6	分娩準備教育（乳房の手当て・新しい家族役割への適応過程への援助）	講義
7	妊婦の健康診査(子宮底・腹囲測定・レオポルド触診法・胎児心音測定)	演習
8	妊婦の健康診査(子宮底・腹囲測定・レオポルド触診法・胎児心音測定)	演習
9	妊婦の安全	講義
10	分娩の生理と経過	講義
11	分娩の経過と看護	講義
12	分娩の経過と看護	講義
13	産婦の心理的特徴	講義
14	産婦の安全	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験を100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 70

分野	専門分野（母性看護学）				
科目名（必修）	褥婦、新生児、ハイリスクな周産期を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					助産師
講義回数	15回	開講時期	前期		医師

テキスト

新体系看護学全書　母性看護学①　母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社）

目的

対象が自身と新しい生命の健康管理が実践できるよう生活指導を中心とした看護について学習し、褥婦・新生児（ハイリスクを含む）の看護実践の基礎知識を学ぶ。

目標

1．褥婦の健康管理と保健指導について理解できる。

2．新生児の健康管理と保健指導について理解できる。

3．ハイリスク妊娠、異常分娩の褥婦の健康管理と保健指導について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	産褥の経過について	講義
2	褥婦の心理・社会的特徴・家族の心理について	講義
3	褥婦の看護の実際	講義
4	新生児の経過について	講義
5	早期新生児の看護について	講義
6	新生児の安全について	講義
7	新生児の看護の実際（沐浴・観察演習）	講義
8	新生児の看護の実際（沐浴・観察演習）	講義
9	ハイリスク及び異常な状態にある妊産褥婦・胎児の病態生理・検査・治療	講義
10	安静療法・薬物療法（切迫早産、切迫流産、妊娠高血圧 等）	講義
11	異常分娩（前期破水、帝王切開術、胎児機能不全）	講義
12	ハイリスク及び異常な状態にある新生児の病態生理	講義
13	ハイリスク及び異常な状態にある新生児の病態生理と看護	講義
14	死産、障害を持つ新生児を出産した親への看護	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験を100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 71

分野	専門分野（母性看護学）				
科目名（必修）	周産期にある人の看護過程				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					助産師
講義回数	8回	開講時期	後期		

テキスト

新体系看護学全書　母性看護学①　母性看護学概論／ウィメンズヘルスと看護（メヂカルフレンド社）

新体系看護学全書　母性看護学②　マタニティサイクルにおける母子の健康と看護（メヂカルフレンド社）

目的

正常経腟分娩の褥婦・新生児の事例を通し看護過程を展開する能力を養う。

目標

1．褥婦と早期新生児の生理的変化の特徴をふまえ、ウェルネスの視点でアセスメントできる。

2．褥婦と早期新生児に必要な援助を、ウェルネスの視点で考えることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	正常経腟分娩　褥婦の事例	講義・演習
2	正常経腟分娩　褥婦の事例	演習
3	正常経腟分娩　褥婦の事例、発表	演習
4	正常経腟分娩　褥婦の事例、発表	演習
5	正常経腟分娩　新生児の事例	講義・演習
6	正常経腟分娩　新生児の事例	演習
7	正常経腟分娩　新生児の事例、発表	演習
8	正常経腟分娩　新生児の事例、発表	演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

レポート、課題提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。

その他

〈参考書〉百瀬千尋編著　看護学生のためのレポート＆実習記録の書き方（メヂカルフレンド社）

科目番号： 72

分野	専門分野（精神看護学）				
科目名（必修）	精神看護学概論				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	1年次	担当講師	実務経験
					臨床心理士
講義回数	15回	開講時期	後期		看護師

テキスト

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔1〕　精神看護の基礎（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔2〕　精神看護の展開（医学書院）

目的

人の心の働き・構造・発達の基礎知識を学び、精神に障がいを持つ人の理解、精神看護への活用へとつなげる。

目標

1．人のこころのはたらきについて、様々な視点で理解できる。

2．こころの発達を発達理論に基づいて理解できる。

3．精神看護における対象と看護師の関係について理解できる。

4．精神看護で活用する技能について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	精神看護の考え方（社会環境の変化と社会病理/精神看護とは）	講義
2	精神の健康の考え方（精神・心とは/精神の健康/ウォーリン　レジリエンス）	講義
3	精神の機能と発達（こころの仕組みと人格の発達/自我の機能/フロイト　自我の発達/トラベルビー）	講義
4	精神の成長・発達（エリクソンの心理社会的発達論）	講義
5	精神保健医療福祉と看護の歴史（諸外国/日本の歴史）	講義
6	精神保健医療福祉の変遷と法や施策	講義
7	精神保健医療福祉における課題	講義
8	危機と危機介入（危機の概念/危機の種類/アギュララの危機回避モデル）	講義
9	危機と危機介入（危機介入/各発達段階における危機と予防/ラザルス　ストレスコーピング理論）	講義
10	災害時地域精神保健医療活動	講義
11	医療の場における精神保健と看護（リエゾン精神看護の定義/役割/対象）	講義
12	医療の場における精神保健と看護（活動の実際/看護師のメンタルヘルスへの支援）	講義
13	地域におけるケアと支援（地域生活を支えるシステムと社会資源）	講義
14	地域におけるケアと支援（アウトリーチと多職種連携/家族システム）	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 73

分野	専門分野（精神看護学）				
科目名（必修）	精神に障がいを持つ人の理解				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					医師
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔1〕　精神看護の基礎（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔2〕　精神看護の展開（医学書院）

目的

心の健康におよぼす様々な要因を知り、精神の健康課題を持つ人の理解と、こころの健康の回復、維持・増進のための援助について学ぶ。

目標

1．精神に障がいを持つ人の特徴及び治療が理解できる。

2．精神に障がいを持つ人の看護の基本的な考え方が理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	脳と精神機能/精神医学とは/患者の人権擁護	講義
2	病体の特徴と診断・治療/精神障害を持つ人の理解（統合失調症）	講義
3	病体の特徴と診断・治療/精神障害を持つ人の理解（統合失調症）	講義
4	病体の特徴と診断・治療/精神障害を持つ人の理解（気分障害）	講義
5	病体の特徴と診断・治療/精神障害を持つ人の理解（パニック障害/PTSD/脅迫性障害）	講義
6	病体の特徴と診断・治療/精神障害を持つ人の理解（認知症/知的・発達障害/摂食障害）	講義
7	病体の特徴と診断・治療/精神障害を持つ人の理解（パーソナリティ障害）	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 74

分野	専門分野（精神看護学）				
科目名（必修）	精神に障がいを持つ人の日常生活を支える看護				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔1〕　精神看護の基礎（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔2〕　精神看護の展開（医学書院）

目的

精神に障がいを持つ人とその家族の日常生活、及び地域で暮らし続ける上で必要な看護について考える。

目標

1．精神に障がいを持つ人の生活の特徴が理解できる。

2．精神に障がいを持つ人の家族の看護が理解できる。

3．地域生活を支えるシステムとケアの方法と実際について理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	ケアの人間関係（ペプロウ　人間関係の看護論/プロセスレコード）	講義
2	統合失調症を持つ人の精神身体症状とセルフケアアセスメント	講義
3	統合失調症の経過に応じた看護　（急性期～回復期）	講義
4	統合失調症の経過に応じた看護　（社会生活維持期～慢性期）	講義
5	気分障害を持つ人の精神身体症状とセルフケアアセスメント	講義
6	気分障害を持つ人の経過に応じた看護	講義
7	神経症性障害を持つ人の精神身体症状とセルフケアアセスメントと看護	講義
8	境界性パーソナリティ障害を持つ人の生活と看護	講義
9	摂食障害を持つ人の生活と看護	講義
10	地域で精神に障がいを持つ人を支援する際のシステムと方法	講義
11	地域で精神に障がいを持つ人を支援する際のシステムと方法	講義
12	依存症を持つ人の生活と看護	講義
13	退院促進と訪問看護・訪問看護を取り巻く社会と訪問看護の実際	講義
14	ソーシャルスキルトレーニングの理論と実際	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号： 75

分野	専門分野（精神看護学）				
科目名（必修）	精神に障がいを持つ人の看護過程				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		

テキスト　系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔１〕　精神看護の基礎（医学書院）
系統看護学講座　専門分野　精神看護学〔２〕　精神看護の展開（医学書院）
リンダJ.カルペニート著　黒江ゆり子監訳　看護診断ハンドブック　第12版（医学書院）

目的

精神に障がいを持つ人のの事例を通し看護過程を展開する能力を養う。

目標

１．精神に障がいを持つ人の特徴を踏まえて看護過程の展開できる。
２．精神に障害をもつ人とその家族への看護を理解できる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	統合失調症の事例紹介　（精神障がいを持つ人の看護過程の展開の特徴／全体像の捉え方）	講義
2	ゴードンの11の健康機能パターンを使用したアセスメント	演習
3	ゴードンの11の健康機能パターンを使用したアセスメント/関連図	演習
4	看護診断の抽出	演習
5	看護診断発表会	演習
6	看護計画立案	演習
7	看護計画立案	演習
8	看護計画発表	演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

レポート、課題提出内容、発表内容、出席態度、出席時間を総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。

その他

〈参考書〉百瀬千尋編著　看護学生のためのレポート＆実習記録の書き方（メヂカルフレンド社）

科目番号:　76

分野	専門分野（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	臨床判断の基礎				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	2年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	8回	開講時期	後期		

テキスト

なし

目的

臨床判断が求められる経験を通じ、気づき・解釈する・反応する・省察するの4つのフェーズを辿ることで自身の課題について明らかにし、臨床判断を行う基礎的能力を養う。

目標

1. 臨床判断の考え方と構成要素が理解できる。

2. 気づき・解釈する・反応する・考察する過程を辿り、自己の課題に気づくことができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	臨床判断とは　タナーの臨床判断モデル　情報の概念化	講義
2	事例検討①　～思考発話を促す～	講義
3	事例検討②　～「気づき」「解釈」「反応」「省察」の言語化を促す～	演習
4	患者の事例を用いた臨床判断	演習
5	思考発話の実践①	演習
6	患者の事例を用いた臨床判断	演習
7	思考発話の実践②	演習
8	試験	演習
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

OSCE60%、レポート40%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号:　77

分野	専門分野（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	看護管理				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔1〕 看護管理（医学書院）

目的

看護師が良い看護を提供できるよう、円滑な業務遂行のための看護職員や設備、環境の管理のあり方について学ぶ。

目標

1. 病院組織における看護部門の位置付け、役割、機能を学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につける。
2. 他職種と協働して医療チームを組み、患者を支える大切さを理解する。
3. 組織の仕組みを知り、質の高いケアを実践するための柔軟性のあるメンバーシップ、リーダーシップを理解する。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	看護とは　看護管理とは、看護覚書き、看護管理、家庭について、小管理について	講義
2	日本の人口構造　社会的費用、封建医療のパラダイムシフト　病院の基本的成り立ち	講義
3	看護サービス提供体制の特徴　看護業務基準　診療情報の伝達と共有　看護記録とは	講義
4	看護管理に伴う基本的役割　人的資源管理　入院基本料と看護配置	講義
5	新人看護職員臨床研修制度について　法律の概要　現任教育	講義
6	各看護単位での看護管理　病棟管理について　勤務表作成演習	講義
7	医療保険制度　診療報酬体系と看護　職務上の危機防止　ストレスマネジメント	講義
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号:　78

分野	専門分野（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	医療安全				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
					医師
講義回数	15回	開講時期	前期		看護師

テキスト

系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔2〕 医療安全（医学書院）

医療安全ハンドブック　第5版（医学書院）

目的

看護職として医療安全に対する認識を高めることをねらいとする。

目標

1. 医療安全に関する基礎的知識が理解できる。
2. 事例検討を通し、事故が起きる要因と事故防止を考えることができる。
3. 自己の傾向（思考・判断・行動）を知り、対策を考えることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	事故防止の考え方	講義
2	業務領域をこえて共通する間違いと発生要因	講義
3	医療安全とコミュニケーション	講義
4	組織的な安全管理体制	講義
5	医療安全の国内外の潮流	講義
6	医療安全統計　医療安全文化の醸成　インシデント・アクシデントレポート	講義
7	患者間違い、医療安全とコミュニケーション	講義
8	問題分析法	講義
9	診療の補助の事故防止　患者に投与する業務における事故防止（注射）	講義
10	診療の補助の事故防止　患者に投与する業務における事故防止（内服・輸血）	講義
11	療養上の世話における事故（転倒・転落）	演習
12	療養上の世話における（転倒・転落）　インシデント分析	演習
13	感染管理の実際　（感染を取り巻く状況と対策、院内の組織、管理活動の実際）	講義
14	感染管理の実際　（感染を取り巻く状況と対策、院内の組織、管理活動の実際）	講義
15	試験・まとめ	講義

評価方法・評価基準

筆記試験100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号:　79

分野	専門分野（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	災害看護・国際看護				
単位数（時間）	1単位（15時間）	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	7回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔3〕 災害看護学・国際看護学（医学書院）

目的

災害時における看護の役割と対応の基礎、医療・看護の国際協力と看護活動について学ぶ。

目標

1. 災害体制と災害救助活動の概要が理解できる。
2. 災害各期の看護活動を理解できる。
3. 災害時のトリアージと救急処置について演習を通して理解できる。
4. 世界の保健医療福祉の現状が理解でき、問題点を考えることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	災害の定義、災害の種類、災害サイクル、災害時期別健康問題	講義
2	災害看護の定義と役割、災害サイクルと災害サイクル別看護活動	講義
3	トリアージの基本と方法、救命・救急状態にある対象の理解	講義
4	災害看護の実際（トリアージ・救急処置）	演習
5	災害看護の実際（トリアージ・救急処置）	演習
6	世界の国際看護・国際協力の現状	講義
7	国際協力の課題	演習
8	試験	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・評価基準

筆記試験50%、演習・グループワーク50%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

現代社会における日常的な災害を認識し、看護の重要性を自覚した積極的な演習への取り組みを期待する。

科目番号:　80

分野	専門分野（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	看護研究				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　別巻　看護研究（医学書院）

はじめてでも迷わない！看護のためのケーススタディ（医学書院）

目的

事例研究を通して文献の活用方法を学び、論理的思考を高める。看護研究の基礎的知識・技術を身につけ自己を研鑽する態度を養う。

目標

1. 研究の実際を学び、研究活動を通じて事例研究の基礎的知識を身につけることができる。
2. 実習の事例からテーマを決定し、看護研究論文としてまとめて発表することができる。
3. 研究をまとめる過程を通じて自己の看護観を深める事ができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	事例研究の意義	講義
2	クリティーク	講義・演習
3	研究計画相談	演習
4	研究相談	演習
5	研究相談	演習
6	研究発表の方法	講義
7	研究発表方法相談	演習
8	研究発表（口演）	演習
9	研究発表（口演）	演習
10	研究発表（口演）	演習
11	研究発表（口演）	演習
12	研究発表（口演）	演習
13	研究発表（口演）	演習
14	研究発表（口演）	演習
15	まとめ	講義・演習

評価方法・評価基準

事例研究論文と研究発表を総合的に評価したものを100%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号:　81

分野	専門分野（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	看護統合演習				
単位数（時間）	1単位（30時間）	対象学年	3年次	担当講師	実務経験
					看護師
講義回数	15回	開講時期	前期		

テキスト

系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔1〕 看護管理（医学書院）

系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践〔2〕 医療安全（医学書院）

目的

チームで複数患者への看護を実践し、複数患者への看護実践を行ううえでの優先度の判断や公平性、チーム内での協働を行う上で必要な視点と能力について考え、自己の課題を明確にすることができる。

目標

1. 患者の病態生理、治療、処置、看護を学習し、看護技術の方法の根拠、留意点を明確にできる。

2. 複数患者に対し、患者状況に応じて優先度に基づき行動計画（看護計画）の立案、変更および必要な実施が安全にできる。

3. メンバーシップ、リーダーシップを発揮し、チームで連携ができる。

4. 自分自身の行動を振り返り、自己の課題を明確にすることができる。

授業計画・授業内容

回	授業内容	授業方法
1	オリエンテーション	講義
2	病態生理、治療・処置、看護の学習	演習
3	病態生理、治療・処置、看護の学習	演習
4	各患者の病態生理、治療、看護の発表	演習
5	マルチタスクの優先度判断や公平性について	講義
6	筆記試験・まとめ	講義
7	看護計画、行動計画の立案	演習
8	技術演習	演習
9	技術演習	演習
10	実技演習、デブリーフィング	演習
11	実技演習、デブリーフィング	演習
12	実技演習、デブリーフィング	演習
13	実技演習、デブリーフィング	演習
14	実技演習、デブリーフィング	演習
15	実技演習、デブリーフィング	演習

評価方法・評価基準

筆記試験30%、看護実践、疾患理解、出席態度・出席時間を総合的に評価したものを70%とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：82

分野	専門分野　臨地実習（基礎看護学）				
科目名（必修）	患者を支える病院・看護を知る実習				
単位数（時間）	1単位（45時間）	対象学年	1年次	担当講師名	
		開講時期	前期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：41時間（うち病院オリエンテーション：3時間）、発表会：3時間				
実習場所（時間）	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　外来（12時間）、診療協力部門（12時間）、病棟（14時間）				

実習目的

患者を支える病院の様々な部門の機能と特徴、および看護の役割を学ぶ。

実習目標

1．病院の概要と機能・役割を理解できる。
2．外来および診療協力部門の役割を理解できる。
3．外来受診の実際、健康問題をもつ対象への理解を深める。
4．患者の療養環境の特徴と病棟の看護師および看護補助者・クラークの役割が理解できる。
5．看護者として、基本的な態度を身に着けることができる。

実習内容

1．病院（JCHO東京新宿メディカルセンター）
　1）病院の沿革・機能・特徴
　2）病院（病棟）の構造・設備、環境

2．外来（内科・耳鼻科・外科・眼科・整形外科・救急外来、健康管理センター）
　1）病院内における外来の役割
　2）外来の構造・設備
　3）外来の看護活動の実際
　4）外来で働く他職種の役割
　5）診療科特有の患者の特徴
　6）外来診療における患者の心理

3．診療協力部門（総合案内、医事課、臨床検査室、薬剤部、中央材料室、透析室、放射線室、栄養部、
　　リハビリテーション室、中央監視室、清掃部門、洗濯室）
　1）各部門の病院における役割各部門の構造・設備
　2）各部門の仕事における仕事の実際

4．病棟
　1）病棟の構造・設備
　2）病院・病棟における患者の事故防止・感染予防対策
　3）看護師・看護補助者の活動の実際
　4）患者の入院生活の場と1日の生活
　5）患者とのコミュニケーション
　6）入院生活における患者の心理

5．自主的・主体的学習、研究的態度
　1）実習メンバーと協力し学びを共有する
　2）誠実で礼儀正しく、真摯な姿勢で臨む

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：83

分野	専門分野　臨地実習（基礎看護学）				
科目名（必修）	日常生活を整える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	1年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所（時間）	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟（81時間）				

実習目的

入院中の患者に対し看護の基礎的知識、技術を活用し必要な援助が行える能力を養う。

実習目標

1．患者および患者を取り巻く環境を理解できる。
2．日常生活援助の必要性を明確化し、援助計画を立案できる。
3．基本的な日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して行うことができる。
4．看護者として必要なコミュニケーションをとることができる。
5．実施した援助の評価ができる。
6．看護者として、基本的な態度を身につけることができる。

実習内容

1．患者への基本的な日常生活援助の必要性の明確化
　1）入院が患者の基本的欲求と日常生活行動に及ぼす影響を分析する
　2）日常生活援助を受ける患者の心理を察する

2．患者への基本的な日常生活援助の計画立案
　1）日常生活援助の必要性を患者の状態から考え、説明する
　2）安全・安楽・自立に向けた日常生活援助の計画を立てる

3．対象への基本的な日常生活援助の実践
　1）対象とのコミュニケーション、安全・安楽・自立に向けた日常生活援助を行う
　2）援助前・中・後の患者の状況や反応を観察できる
　3）患者の観察結果および日常生活援助の状況を的確な表現で客観的かつ簡潔に記録する。
　4）医療チームの一員として観察結果および患者の状況を必要性に応じて的確に報告する。

4．患者への基本的な日常生活援助の評価
　1）援助後の考察から、計画の追加・修正を行う。

5．自主的・主体的学習、研究的態度
　1）実習メンバーと協力し学びを共有する
　2）誠実で礼儀正しく、真摯な姿勢で臨む
　3）自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：84

分野	専門分野　臨地実習（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	様々な暮らしの場で生活する人を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：80時間、臨地外実習：9時間				
実習場所(時間)	健康管理ｾﾝﾀｰ（18時間）、障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ施設（6時間）、老人福祉施設（※47時間）、消防署（9時間）				

実習目的

健康段階に応じた多様な場で暮らす対象を支える地域包括ケアシステムを理解し多職種との連携と看護を提供する基礎的能力を養う。

実習目標

1．多様な場で暮らす対象及び家族を理解し、対象の健康課題を理解する。
2．多様な場で暮らす対象の健康課題と暮らしにおけるニーズを知る。
3．実際の体験を通して、地域での暮らしの場に応じた看護および関係職種の活動を理解する。
4．あらゆる健康段階の人の暮らしを支える社会資源とその活用方法、関連機関の連携のあり方を学ぶ。
5．社会的ニーズの変化を捉え地域での暮らしを中心とした看護のあり方について展望する姿勢・態度を身につける。

実習内容

Ⅰ.健康管理センター（JCHO東京新宿メディカルセンター）
1．健康の維持・促進における健康管理センターがもつ役割の理解
1）健康管理センターの役割と機能
2）健康支援における看護師の役割

Ⅱ．障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ（国立障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ、国立職業ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ）
1．障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰにおける機能訓練と職業訓練がもつ機能と役割、利用者の理解
1）障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰの機能と役割
2）障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰを利用する人々
3）社会復帰に向けた機能訓練・職業訓練の実際

Ⅲ．老人福祉施設（原町グループホーム、あかね苑、やわら樹の里）
1．老人福祉施設における看護活動と関係職種の機能と役割、利用者の理解
1）施設の機能と役割
2）施設内で暮らす人と暮らしの実際
3）施設内での看護師および関係職種の役割
4）施設内での療養を支援する社会資源と関連機関や多職種の連携

Ⅳ．消防署（東京都消防庁）
1．多様な場で暮らす対象を支える消防署がもつ機能と役割と利用者の特徴および状況の理解
1）対象を取り巻く人的・物的環境
2）救急車を要請する状況、対象および家族の心理
3）救急活動と医療連携の実際

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

※老人福祉施設：デイサービス（20時間）、グループホーム（18時間）、老人ホーム（9時間）

科目番号：85

分野	専門分野　臨地実習（地域・在宅看護論）				
科目名（必修）	地域で暮らす療養者を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：82時間、臨地外実習：7時間				
実習場所（時間）	患者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ・病棟（37時間）、訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ・看護小規模多機能型居宅介護事業所（36時間）、地域包括支援ｾﾝﾀｰ（9時間）				

実習目的

看護が必要な対象を支える地域包括ケアシステムを理解し多職種と連携して看護を提供する基礎的能力を養う。

実習目標

1．地域の暮らしを支えるシステムを理解し、対象の健康課題とその支援方法を理解する。
2．退院支援における看護の役割と多職種との連携、調整を理解する。
3．多様な場で生活している対象及び家族の生活の諸要素を知る。
4．実際の体験を通して、対象やその家族の生活の場に応じた援助技術・指導技術を理解する。
5．社会資源の活用方法と関連機関、関係職種との連携・調整のあり方を学ぶ。
6．社会的ニーズの変化を捉え地域での暮らしを中心とした看護のあり方について展望する姿勢・態度を身につける。

実習内容

Ⅰ．患者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ・病棟（JCHO東京新宿メディカルセンター）
1．地域で暮らす療養者の入院支援および退院に向けた患者・家族への退院支援における患者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰがもつ機能と役割の理解
1）患者ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰの機能と役割
2）退院調整看護師の機能と役割
3）入院調整における他部署との連携
4）退院調整における医師・看護師との連携
5）退院調整における関連機関との調整内容と地域連携・総合相談センターの役割

Ⅱ．訪問看護ステーション・看護小規模多機能型居宅介護事業所（訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝなないろ、白十字訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ（坂町ミモザの家））
1．在宅で療養している人々や介護する家族の状況を理解し、療養者やその家族の生活に応じた看護の実際を体験する。
1）訪問看護師の機能と役割
2）療養者の生活環境や生活習慣および介護する家族の状況に適した日常生活援助技術の工夫
3）療養者および家族のセルフケア能力を高めるための保健指導
2．社会資源の活用や関連機関との連携の実際を学ぶ。
1）療養者が活用できる社会資源の種類および活用状況
2）関係医療機関との連携の実際、在宅看護に必要な保健医療チームについて
3）療養者が必要としている日常生活援助
4）看護小規模多機能型居宅介護事業所の見学

Ⅲ．地域包括支援センター（新宿区高齢者総合相談センター）
1．介護、福祉、健康、医療などの面から総合的に支える地域包括支援センターがもつ機能と役割の理解
1）地域で暮らす高齢者とその家族の生活および健康に対するニーズを理解する。
2）地域包括支援センターの機能と役割を理解する
3）地域における地域包括支援センターの実際の活動を知る
4）包括支援事業を理解する。
（介護予防事業に関するケアマネジメント、総合相談支援事業、権利擁護事業、包括的・継続的マネジメント事業）
5）介護予防支援業務について理解する。

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：86

分野	専門分野　臨地実習（成人・老年看護学）				
科目名（必修）	健康課題を持つ人を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	2年次	担当講師名	
		開講時期	前期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所(場所)	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟（81時間）				

実習目的

患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、問題解決思考に基づいて看護を展開する能力を養う。

実習目標

1. 患者の状況を観察し、収集した情報の整理ができる。
2. 整理した情報の分析解釈を行い、看護上の問題が明らかにできる。
3. 看護上の問題の優先順位を考え、患者の状態に合わせた計画が立案できる。
4. 立案した看護計画を踏まえ、患者の状況に応じた方法で日常生活援助が実施できる。
5. 実施した援助を根拠に基づいて評価し、看護過程の各要素にフィードバックできる。
6. 看護学生としての自覚と責任を持ち、誠実な態度で実習を行うことができる。

実習内容

1．疾患を持つ患者の必要な情報収集、分析、健康上の明確化
　1）疾病や障害による身体的影響を自覚症状、検査所見、診察所見から情報収集を行い分析する。
　2）患者を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響について観察・分析する。
　3）関連図を作成し、疾病と患者の症状、日常生活に与える影響を理解することができる。

2．疾患を持つ患者の健康上の問題に対する看護計画の立案
　1）患者の苦痛の緩和、合併症の予防、回復促進に向けた計画を立案する。

3．立案した看護計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践
　1）患者の苦痛の緩和、合併症の予防、回復促進に向けた援助を行う。
　2）患者にあったコミュニケーション方法や安心・安全・安楽な援助を行う。

4．根拠のある評価
　1）患者の症状や心理状態の変化から実施した援助を評価する。
　2）評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する。
　3）看護の実践と評価を要約して表現する。

5．自主的・主体的に学習する態度
　1）患者を尊重し、共感的に関わる。
　2）自ら課題に対して真摯に向き合い学習する。
　3）実習メンバーと協力し学びを共有する。

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：87

分野	専門分野　臨地実習（成人・老年看護学）				
科目名（必修）	周術期にある人を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟（81時間）				

実習目的

周術期にある対象を理解し、術後の回復の促進と術後のセルフケア確立に向けた看護を実践する基礎的能力を養う。

実習目標

1．手術侵襲に伴う生体反応と、対象の防衛力、予備力、適応力、回復力の状態をふまえ、身体状態を捉えることができる。
2．周術期にある患者とその家族における心理・社会的特徴について理解できる。
3．周術期にある対象の経過に応じて、異常の早期発見と術後合併症予防、生体機能の恒常性の維持、苦痛の緩和、回復の促進に向けた援助ができる。
4．手術による日常生活や社会生活への影響を踏まえた患者と家族へのセルフケアの確立のための支援を行うことができる。
5．手術を受ける対象の安全の確保および回復の促進に向けた連携について理解できる。

実習内容

1．周術期の患者の情報収集、分析、健康上の問題の明確化
1）病状と麻酔・手術侵襲による影響を考慮した現在の状態の観察と分析
2）患者の予備能力、加齢に伴う機能低下をふまえ、病状と手術侵襲による影響、日常生活に及ぼす影響から二次的障害の明確化
3）身体症状・治療が精神状態や日常生活に及ぼす影響の分析と二次的障害の予測
4）日々変化する状態や予後に対する患者及び家族の心理状態をふまえた分析

2．周術期にある患者の看護上の課題に対する看護計画の立案
1）疾病・術式および患者の個別性から予測される合併症の早期発見・対応、または予防に関する看護計画を立案する
2）患者の苦痛を軽減するための看護計画を立案する
3）症状の悪化、合併症予防の援助を立案する
4）回復状態に応じ、退院後の生活状況をふまえた援助計画を立案する

3．立案した看護計画をふまえ、状況に応じた方法での実践を行う
1）術後の全身状態の観察
2)苦痛の緩和への援助
3）術後の回復促進に向けた離床への援助
4）検査処置の結果から状態を予測した援助の修正
5）術後の安全管理のための援助
6）患者の回復状況に応じた自立を促進するための援助
7）退院後の生活、ライフスタイルをふまえた援助

4．根拠のある評価
1）急性症状の病態、高齢者の回復過程をふまえ手全身状態の評価
2）患者の状態の変化や反応から、現在の状態と二次的障害のリスク評価
3）現状について、患者の言動や客観的な観察など複数の視点から評価する
4）看護実践とその評価を要約して表現する

5．自主的・主体的学習、研究する態度
1）周術期にある患者の看護について、時期や場面に応じた看護の必要性を自己の言葉で表現できる
2）周術期における家族の心理状態を考えることができる
3）周術期における退院支援について、対象のセルフケア能力への働きかけを常に意図して関わる。

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：88

分野	専門分野　臨地実習（成人・老年看護学）				
科目名（必修）	慢性期にある人を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所（時間）	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟（81時間）				

実習目的

慢性期にある患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえ、セルフケアに向けた看護実践能力を養う。

実習目標

1．不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ患者の健康上の問題と生活への影響を根拠を持って理解できる。
2．患者やその家族の個別性やその人らしさを尊重しながら援助を実践できる。
3．残存機能を活かしセルフケア能力の維持や拡大への援助を実践できる。
4．患者と真摯に向き合い、健康障害とともに生活することの苦悩に対し思いを寄せることができる。
5．患者のその人らしい生活を支える多職種や関係機関について知ることができる。

実習内容

1．内科的疾患を持つ患者の情報収集、分析、健康上の問題の明確化
1）発達段階やライフステージ、疾患および加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化、治療の効果や副作用を包括的に観察・分析する。
2）患者を生活者として捉え、疾病や障害と日常生活が相互に与える影響について観察・分析する
3）患者が望む生活の基盤、疾病や障害と社会的役割が相互に与える影響について観察・分析する
4）患者の残存機能・心理的反応・知識・認知力の程度からセルフケア能力を分析する
5）慢性疾患を抱える患者への支援の基盤となる諸理論・概念を理解する

2．内科的疾患を持つ患者の健康上の問題に対する計画の立案
1）ケースカンファレンスを通して、セルフケアの現状と課題や看護の方向性を明らかにする
2）患者回復の促進や健康の保持増進に向けた計画を立案する
3）患者や家族のその人らしさを生かし、持てる力を最大限に発揮できる支援方法を計画する
4）多様な健康レベルに応じた多職種や関係機関との連携・協働について理解する

3．計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践
1）学修した知識・技術・態度を統合し、個別性のある看護を実践する
2）患者に合ったコミュニケーション方法や安全・安楽な援助を行う
3）患者の認知力や残存機能や生活様式を踏まえた健康の保持増進への教育を実施する
4）対象のその人らしさを尊重し、セルフケア能力を最大限発揮できるように患者を擁護しながら支援する

4．根拠をもった評価
1）対象の症状や心理状態の変化から看護を評価する
2）指導中、指導後の反応から対象のセルフケア能力の変化を評価する
3）評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する
4）看護の実践と評価を要約して表現する

5．自主的・主体的学習、研究的態度
1）長期に渡りセルフケアを必要とする不可逆的な慢性疾患を持つ対象の思いを尊重する
2）自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する
3）対象の生きがい、看護の意味や課題を他者からの視点や倫理的観点で振り返る

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：89

分野	専門分野　臨地実習（成人・老年看護学）				
科目名（必修）	慢性期・終末期にある人を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所(時間)	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟（81時間）				

実習目的

慢性期・終末期にある患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえ、その人らしい生活を考えた看護実践能力を養う。

実習目標

1．不可逆的で慢性的な経過をたどる疾患をもつ患者の健康上の問題と生活への影響を根拠を持って理解できる。
2．患者の残存機能を活かした日常生活動作の自立に向けた患者およびその家族への援助ができる。
3．患者のセルフケア能力の維持・拡大、生活の質の維持、社会参加に向けた患者およびその家族への援助ができる。
4．終末期および老年期にある患者と家族が、残された生活を安寧に過ごせるように援助できる。
5．自己の老年観、死生観について考えを深める。

実習内容

1．内科的疾患を持つ患者の情報収集、分析、健康上の問題の明確化
1）加齢による機能低下や予備力の低下を踏まえて、疾病や障害による身体的影響を症状、検査所見、診察所見から観察・分析する
2）患者を生活者として捉え、疾病や障害が日常生活に与える影響と、生活様式が疾病や障害に与える影響について観察・分析する
3）疾病や障害が患者や家族の社会的役割に与える影響について観察・分析する
4）患者の心理的反応や知識・認知力の程度、介護力から自己管理能力や健康管理能力を分析する
5）疾病が終末への受容段階や自己概念や価値に与える影響について観察・分析する
6）人生の終焉を迎える対象や患者を支える家族を観察・分析する

2．内科的疾患を持つ患者の健康上の問題に対する計画の立案
1）患者や家族の望む姿を明確にし、苦痛の緩和や合併症予防に向けた計画を立案する
2）患者のその人らしさや生活様式を考慮し、QOLの保持・向上へ向けた計画を立案する
3）家族の予期悲嘆や対象の孤独感などの生活背景に配慮した計画を立案する
4）社会資源の活用に着目した計画を立案する

3．計画を踏まえ、状況に応じた方法での実践
1）患者の苦痛の緩和、合併症予防、回復促進に向けた援助を行う
2）患者の認知力や自己管理能力、生活様式、家族の介護力を踏まえた教育を実践する
3）患者に合ったコミュニケーション方法や安全・安楽な援助を行う
4）多職種と連携し、対象を支えるチームの一員として援助を行う

4．根拠をもった評価
1）患者の症状や心理状態の変化から看護を評価する
2）患者の日常生活動作や生活行動に着目し、発達段階を踏まえて対象の変化を評価する
3）患者とその家族の反応からニーズの充足度やQOLについて評価する
4）評価の内容を目標や計画へフィードバックし修正する
5）看護の実践と評価を要約して表現する

5．自主的・主体的学習、研究的態度
1）患者に関心を寄せ、探求心をもって学習し自己の課題を明確化する。
2）患者の生活史を尊重し、思いを寄せた関わりをする

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：90

分野	専門分野　臨地実習（小児看護学）				
科目名（必修）	小児の成長・発達を支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所（時間）	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟・外来（45時間）、保育園（36時間）				

実習目的

小児の成長・発達過程の理解を深め、あらゆる健康レベルの小児および家族に対する看護実践能力を養う。

実習目標

1．小児の成長発達段階・発達課題をライフサイクルからみて統合的に理解・評価し、適切な援助が実践できる。
2．小児の成長・発達段階に適した基本的生活習慣および躾の方法を理解し、基本的生活習慣の獲得への援助ができる。
3．小児と環境との相互作用について理解・分析し、健康阻害因子の除去および健康の維持・増進のための援助ができる。
4．現代の家族の機能に目を向け、小児にとっての家族の意義を考え、小児観・育児観を深めることができる。
5．健康レベルに合わせた小児保健医療活動について理解を深める、
6．保護者、保育士、多職種との連携および組織的な活動の中での看護者の役割を理解できる。

実習内容

Ⅰ．病棟（JCHO東京新宿メディカルセンター）

1．健康障害をもつ小児とその家族の情報収集、分析、健康上の問題の明確化と計画立案
　1）疾病による身体的影響を分析し、健康上の問題、疾病・治療と成長・発達が相互に与える影響を明確にする
　2）小児の日常生活及び基本的生活習慣の状態を捉え、一人ひとりの発達の状況を明確にする
　3）家族の身体的・心理的・社会的状況や子どもへの思いや願いについて考える
　4）小児に起こりやすい事故（身体損傷）および感染の特徴、誘因について理解する
　5）小児の健康上の問題や発達段階および家族の状況や価値観に応じた目標を設定し、計画を立案する

2．発達段階・健康状態に応じた小児および家族への看護実践、評価
　1）発達段階、健康状態に合わせた小児へのコミュニケーションを実践する
　2）検査・治療の援助上の留意点を理解し、小児の未熟性を考慮した事故・感染予防行動がとれる

3．自主的・主体的学習、研究的態度
1）児に影響を及ぼす看護者の役割と行動について考える
2）自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する
3）健康障害をもつ小児の権利擁護について考えると同時に、家族のニード、価値観、育児観を尊重する姿勢で臨む

Ⅱ．外来（JCHO東京新宿メディカルセンター）

1．成長発達段階をふまえた小児とその家族への診療の補助および指導、健康を促進するための関わりの理解
　1）診察を受ける児の成長・発達と健康状態を理解する
　2）母親や家族など保護者への援助を理解する
　3）外来通院が家族の機能・役割に与える影響を理解する

Ⅲ．保育所（妙福寺保育園、二葉南元保育園、大泉保育園、緑ヶ丘保育園）

1．ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝや遊び、保育園の活動、保育士の子どもとの関わりを通した小児の成長・発達段階の理解
　1）成長・発達段階の観察と分析による援助を安全に留意して実践する
　2）基本的生活習慣の確立への援助を安全に留意して実践する
　3）保育所の機能と役割と家族との連携について理解する

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：91

分野	専門分野　臨地実習（母性看護学）				
科目名（必修）	生命の育みを支える看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：70時間、臨地外実習：19時間				
実習場所（時間）	病棟（50時間）・助産所（20時間）				

実習目的

妊娠・産婦・褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に必要な看護が提供できるための基礎的能力を養う。

実習目標

1．妊娠の生理的な経過と必要な保健指導について理解できる。
2．分娩期の苦痛緩和を通して、生命誕生の喜び・生命の尊厳について考えることができる。
3．産婦の生理的変化と心理的変化について理解できる。
4．褥婦の健康生活の維持と母子関係成立へのが理解できる。
5．新生児の胎外生活適応への援助について理解できる。

実習内容

Ⅰ．病院（東京山手メディカルセンター）
1．分娩期の援助の実際
1）分娩の進行状態および胎児の生理的変化の正常経過を理解する

2．褥婦の看護展開
1）母子がより健康に生活するために必要な看護展開する
2）褥婦の生理的変化を理解し、産褥経過をアセスメントする
3）褥婦の疲労回復への援助を行う
4）褥婦の言動や育児行動から産後の心理的変化の理解、母親役割獲得過程の理解する
5）家族（父親）役割行動と支援体制の評価する

3．新生児の特徴と生理的変化を理解し、新生児の正常な発育への援助
1）胎内環境から胎外環境への適応時期の援助を理解する
2）新生児の生理的特徴や変化の理解し援助する

4．自主的・主体的な学習研究的態度
1）生命の誕生を厳粛に受け止める態度で臨む
2）母子および家族に対する尊敬の念を持つ態度で臨む

Ⅱ．外来（東京山手メディカルセンター）
1．妊娠期の援助の実際の見学
1）妊娠による母体と胎児の生理的変化の理解する
2）妊娠期に必要な主な検査と保健指導の理解する

Ⅲ．助産所（しらさぎふれあい助産院、東大和助産院）
1．母子の生活を継続して援助するために、地域社会における連携の必要性と活動の実際
1）助産所の地域における機能と役割をりかいする
2）助産師による周産期にある母子および家族へに援助の実際を理解する

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：92

分野	専門分野　臨地実習（精神看護学）				
科目名（必修）	その人らしさを支える精神看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期		実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所（時間）	病棟（63時間）、地域活動支援センター（18時間）				

実習目的

精神に障がいを持つ患者の身体的・精神的・社会的側面への影響をふまえた看護実践能力を養う。

実習目標

1．精神に障がいを持つ対象の特性と疾患の特性から、健康上の課題と生活への影響を理解できる。
2．疾患の再燃を予防し、地域での安定した生活を送れるための視点をふまえた援助を考えることができる。
3．対象の状態に応じた安全な治療的環境が提供できる。
4．患者が地域で安定した生活を営むために多職種と看護師の役割を考えることができる。
5．自己を客観視し、コミュニケーションの傾向や特徴を知ることができる。

実習内容

Ⅰ．病棟（JCHO東京新宿メディカルセンター）

1.精神的な疾患や障がいを持つ対象の情報収集、分析、健康上の問題の明確化
1）患者の疾患や障がいの経過及びその程度と治療の効果や副作用について観察・分析する
2）精神症状が日常生活や社会生活に及ぼす影響について分析する
3）入院目的や家族背景、生活歴、経済的状態などの社会的側面が及ぼす影響について理解する
4）疾患による症状や治療が及ぼす事故について分析する
5）指導者の患者への関わりを見学し、治療的コミュニケーションや人間関係の構築について理解する
5）対象の問題行動だけでなく健康的な側面にも関心を向ける

2．精神的な疾患や障がいを持つ対象の健康上の課題に対する計画の立案
1）患者の現在の精神状態と治療方針をふまえた目標を設定する
2）患者の安全を守り、治療的環境を整えるための対策を立案する
3）疾患による症状により影響のある日常生活を支援する計画を立案する
4）退院後の社会復帰に向けた支援について考える

3．計画をふまえ、状況に応じた方法での実践
1）患者の言語的、非言語的な訴えに注意を払い、コミュニケーションを行う
2）患者の社会復帰に向けた生活と行動特性に配慮した日常生活へ援助を実践する
3）プロセスレコードを通して自己の感情や対人関係の傾向を振り返る。

4．根拠を持った評価
1）対象との治療的コミュニケーションの状態から評価する
2）対象の日常生活行動および社会復帰への思い、人間関係の変化より評価する
3）看護実践と評価を要約して表現する

5．自主的・主体的学習、研究的態度
1）その人らしさや健康的な側面に目を向け、常に誠実で受け入れる態度で臨む
2）自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する

Ⅱ．地域活動支援センター（オフィス　クローバー、新宿共同作業所ラバンス、まど、ファロ、工房「風」）

1．地域活動支援センターがもつ機能と役割の理解
1）対象が地域で自立した生活を継続するための施設での活動内容と支援の方法を理解する
2）精神疾患や障がいを持つ人が地域で生活するための多職種との連携について理解する

看護実践、記録物、カンファレンス内容を評価基準に基づき総合的に評価し、100点中60点以上を合格とする。

その他

科目番号：93

分野	専門分野　臨地実習（看護の統合と実践）				
科目名（必修）	統合看護実習				
単位数（時間）	2単位（90時間）	対象学年	3年次	担当講師名	
		開講時期	後期	実務経験	看護師
実習方法	オリエンテーション：1時間、臨地実習：81時間、臨地外実習：8時間				
実習場所（時間）	JCHO東京新宿ﾒﾃﾞｨｶﾙｾﾝﾀｰ　病棟（81時間）				

実習目的

既習の知識・技術・態度を統合し、チームメンバーの一員としての看護実践能力を養う。

実習目標

1．看護の優先度を考慮して複数の患者への看護を実施することができる。
2．夜間実習の経験を通して、看護が24時間継続していることが理解できる。
3．病棟における看護管理を理解できる。
4．チームナーシングの中でのリーダーシップ、メンバーシップから看護体制が理解できる。
5．多職種連携における看護師の役割が理解できる。

実習内容

1．多重課題に対する看護の優先度を考慮した援助
　1）緊急性・治療・検査の予定・生活パターンなどを考慮した1日の行動計画を立案する
　2）それぞれの対象の問題点に合わせた必要な看護援助を実践する
　3）適時、緊急性・重要性を判断した報告・連絡・相談を行う
　4）患者の意思決定を支え、倫理的な看護を実践できる

2．夜間の継続した看護活動の理解
　1）夜間の看護体制と看護師の役割を見学、一部実践する
　2）昼と夜の患者の訴えや心理状態の違いについて観察し、考察する
　3）円滑な業務遂行のための取り組み(翌日の検査・処置の準備、薬剤管理・準備等)を見学する
　4）夜間における事故の危険性について考察する
　5）夜間の睡眠が得られるための環境を整える

3．看護管理・看護体制の理解
　1）病棟管理者の機能と役割を理解する
　2）病棟の業務および人の管理、看護教育、他部門との連携の実際を明確にする
　3）リーダー、メンバーそれぞれの業務・役割を考察する
　4）NSTや褥瘡、糖尿病等、医療における多職種連携の実際と役割を考察する

4．自主的・主体的学習する態度
　1）看護師が組織の一員としてとるべき態度をもって臨む
　2）自己の在り方を省察することで課題を明確にし、主体的に学習・研鑽し看護実践能力を向上する

評価方法

記録物や実践・実習態度・出席状況を実習指導者と協議し評価したものを100％とし、100点中60点以上を合格とする。

その他